

昨年の報告になる。1月15日までの積雪は10cm程度で場所によっては地肌が見える所もあった。いつものようにテレビでは北海道で豪雪になった！と騒ぐが、北海道で豪雪になった所もある、が正しい表現だ。ななつて国土の20%、東北6県よりも大きく、関東・甲信越に北陸を足した面積よりも広いのだから、じつぱひとからげ、されてはたまらない。

昨年の春小麦の初冬播き

北海道で渇水になった、という話をあまり聞いたことがない。南の文化が正しいと考える人には理解できないだろうが、北海道には雪が降りその雪を半年間しっかりと貯蔵できる山々や湖があるからだ。北海道は雪が降るから大変だ！という発想は、南アジアの発想そのものであり、確かにその文化を北に持って来たら大変になると自らが卑下しているようなものである。

人口が多いからというのは理由にならない、ロサンゼルスは遠くロッキークーから水を運び、農業用水を削減させてまで都市を豊かにしている。あるダムの貯水量の権利の半分は農業用で、1/4は工業用、残り1/4は飲料となっている。さて、豊かではなくてならない国土に住む万民の

ために蓄えている水の協調性は、日本には存在するのだろうか。

とは言いながら雪が少ないことはありがたい話だが、その前年12月上旬に播種した私と当時グリーンバイオ研究所の景浦さんが開発した春小麦の初冬播きは、ある程度の積雪を見込んで春を迎える。

マイナス20℃でも積

雪が30cmあれば地面と積雪面は零度程度だ。

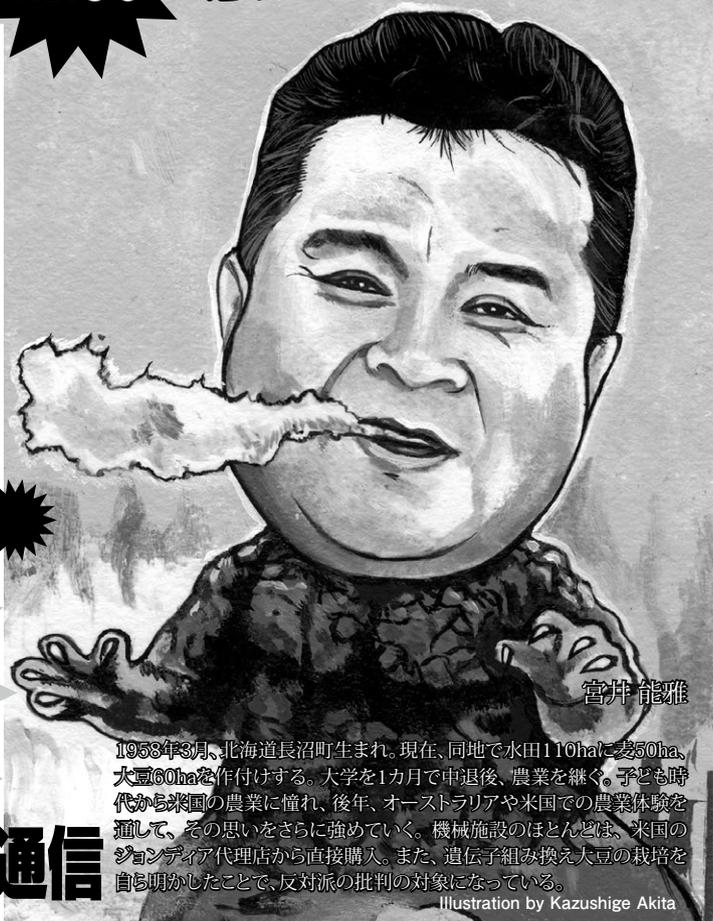
12月に播種した春小麦はゆっくり発芽して生育するが、雪がないと越冬性に劣る春小麦はアデオスとなる。じゃー春に播種したら良いではないか、となるが、この地域は北

空知よりも南にあり気温が低いので(間違っています)、生育期間が限られてしまう。

昨年は雪が少なく春に播種する春小麦も3月31日に作業ができ、幸先の良いスタートだった。ある研究者の話によると、北海道で麦が豊作になる気象条件は、4月から6月の開花が終わるまで平年よりも気温が高く、その後は収穫までは平年よりも気温は低い方がよいとされる。過去

豊かな農業予算に感謝しています!

Vol.156



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

1993年、02年、15年はこの気象条件にピッタリ当てはまり、昨年も大豊作だった。

ありがたいことに、このような気象条件の年は麦の収穫が始まると気温も高くなり、大豆の収量も上がる傾向になる。降水に関しては近年では麦の収穫が始まるまでは干ばつ傾向のようだが。ただ降水量の数字だけを見ると、干ばつになっていない。つまり、雨の日は

オレにも
言わせる!

北海道長沼発
ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

減ったが降るとドカーンとやって来るのだ。

で、麦の収量はどうだったのか。春小麦は過去最高で秋小麦並みにあり、秋小麦も過去二番目の収量になった。収益は農水と契約しているの、取れば取れるほど収入が右45度の美しい比例曲線(直線)を描いてくれる。農水さま、豊かな農業予算を作っていたら、ありがたうございます。これは皮肉でも何でもない。心からそう思っているし、すべての小麦、大豆生産者はこの政策に感謝している。

西南農場の新しい仲間!

騙された! 麦収穫後にソバの栽培をやっている。やはり気温が高くとソバの生育もよるしい。

今までは麦収穫が終わり残渣処理をしてチゼル等で耕起をして、ソバを播種していた。この作業で2〜3日は必要だ。北海道の夏は短いので1日でも早く播種した方がよい。7月下旬に播種できれば700kg/haの収量になるが8月20日を過ぎると限りなくゼロになるようだ。

あるソバ栽培の重鎮からは、畑はシツカリと耕起しないと発芽が良くなく、生育が悪くなる、とのご指導を受けていたが、今回は麦の収穫後

の残渣処理をして不耕起でソバを播種した。前号で紹介した魔法の薬も散布した。不耕起で播種したことで、2日程度作業は早まった。で、収量は良いですね♡ この重鎮もダメすつもりはなかったの、でしょうが、昨年と同じことをやれば今年も同じ結果になることは金髪・ブルーアイでなくても理解できる(小作人根性の持ち主は除く)。

ソバの収穫にはコンバインを使う。小麦収穫のコンバインを用いることは可能だが、翌年小麦の中にソバが混入されると800円/60kgの選別料が追加される。たかが800円だつて? 仮に収穫した半分の小麦にソバが混入されると、私の農場ではおよそ500万円以上の経費負担になる。よってソバ生産者は小麦用コンバインとソバ用コンバインの2台持ちが普通である。

昨年は麦後にソバを30ha栽培した。自分のコンバインを使えばタダ(ではないが)使えるが、やはりソバ収穫後にコンバインの掃除をしてもソバ混入の危険性があるのでソバ用のコンバインを借りることにした。5万円/haの使用料になる。30haだから150万円、その他の乾燥料で40万円+もろもろ。ソバ全体の売り上げは900万円だ。

そこでソバ用の中古のコンバインを探すことにした。できれば同じ色(メーカー)にしたい。ところが同じ色の中古コンバインは、ほぼほぼ市場に現れることはない。よく言えば人気があるので市場に出る前にセールズが先に顧客を見つけてしまう。もしくは同じ色のコンバインは価格が高いので、絶対数が少ないことに起因する。

電話したのは8月29日。オホーツクの畑作農家とコンタクトを取った。この方とは20年来的の知り合いになり、後で知ったことだが奥様は私の近くに住んでいた方だった。そんな縁もあり、ダメ元でオホーツク地方の中古コンバイン市場を聞いてみた。

「10年使った中古あるよ」

マジか! 2日後の最高気温13℃の8月31日に北海道大学・農学部のアルバイトに左ハンドルのターボ265馬力アイサイト付きスバルを運転させて、当地に向かった。

コンバインは当地のJA(農協)所有だった。JAではコンバインを15台所有していて、新車で購入して10年稼働したか、もしくはシリンドラー時間で1000時間使用すると放出するようだ。当地の整備責任者から整備関係の話を聞き、一台購入することを決めた。支払いはすぐ行なうので来週にでも運んでほしいと

お願いしたが、支払先は緑のメーカーや当地JAではなかったり、色々な大人の事情があり、長沼に来たのは12月になってしまった(西南農場 新しい仲間 YouTube からご覧になれます)。

到着したコンバインのエンジンを回してみた。ざっくり周りを見ても異常はない。ベルトは多少の劣化はあるが、まだ5年は使えそう。ここで終わったらそこそこの生産者で終わるのでアメリカにこのコンバインのすべてのベルト、チェーンをオーダーした。3月には到着するので5月の連休にでも交換することになる。

ところでなぜ小麦の中のソバを気にするのか? 気にするという程度では済まされないからだ。ソバアレルギーの人は、お茶碗に1粒のソバが混入していてもアナフィラキシー症状になる。いくら収穫物がPL法(製造物責任法)の除外であっても、ソバ一粒は生死にかかわる問題となるのだから、結局誰かが責任を取ることになる。

なんでも大人の10%、乳児の20%は何らかの食べ物アレルギーがある。安全・安心と騒ぐのは簡単だが、食べ物アレルギーの責任をだれに押し付けられれば、問題の解決になるのだろうか。